

令和7年度 第2回 京丹波町子ども・子育て審議会 議 事 概 要

日時：令和7年9月18日（木） 午後1時30分～4時

場所：京丹波町役場2階 大会議室

出席委員：15名

欠席委員：4名

1 会長あいさつ

会 長：今年の夏はとても暑く、35度を越える猛暑日が続いた。夏休み期間の40日間、こどもたちは家庭で過ごすことになり、エネルギーが尽きやすいこどもたちなのでやりたいことはたくさんあるだろうし、こどもたちを見守る保護者の皆さんにもやらせてあげたいことがたくさんあったと思う。それを行うためには努力や工夫が必要な気象状況になってきた。この気象状況は今年度だけでなくこの先も続くと予想され、今以上に過酷な状況になるのではないかと懸念している。その中でこどもたちにやりたいことをさせてあげるためには施策が必要で、それぞれが考え、努力し、工夫していくことも必要になってくる。これから、たくさんの思いを持ってこどもたちを見守っていききたいと思う。

私の娘も京都市内で子育てをしており、工夫しているなど思ったのが、朝の早い時間や夕方にこどもたちを鴨川に連れて行って水遊びをさせている。また、私たちと一緒に海水浴に行くときも、日中ではなく夕暮れ時に行って、ラッシュガードやライフジャケットを着せて紫外線対策の帽子をかぶり、安全対策の靴を履いて、顔と手先しか出ていないという状態で海水浴をした。私たちが体験した海水浴とはすごく様式が変わったと感じた。娘が話したのは、こどもをずっと部屋に閉じ込めて見ていることが苦痛なので、ママ友と連携して遊びに行くための準備や対策を行い、こどもに体験させてあげたことや、こどもが親と一緒に満足できたことは、本当に豊かなことだったし、ママ友に助けられた夏休み期間だったということだった。こどもを見守るコミュニティのあり方を強化していく必要があると感じた。

本日の審議会では、関係機関ヒアリングの結果のまとめや、前回の審議会では皆さんから意見を受け、会長と副会長、事務局とで考え、若者向けに再度実施したアンケート調査の概要についての報告、放課後児童クラブで意見聴取を行った結果についての報告など、たくさんの審議事項がある。この中で事前に送付のあった資料からは、こどもたちの生の声や少し無関心な若者たちの実態、子育てをされている保護者の厳しい現状や行政への期待、なによりアンケートへの回答や意見に対する答えがほしいという訴えがあった。関係機関へのヒアリング結果からは、横のつながりの中で自分たちの事業への肯定感が得られることや、連携の中でより密なケアが届くようにしたいという声があった。このような思いに触れると、審議会として、また私個人としてどんなことができるのだろうかという問いが自然と湧いてくる。

ていた。机上の空論ではいけないという気持ちがあり、審議会に参加して皆さんの顔を見ていると、個の審議会で審議し、第1期のこども計画が策定される工程がひとつの答えではないかと思う。なので皆様の忌憚のないご意見をたくさん出していただきまして、こどもや若者、子育てをされている保護者に寄り添った意見をまとめ、こども計画の策定に結び付けられることを祈念している。

2 報告事項

(1) 関係機関ヒアリングの結果について

【事務局による説明】

会 長：意見を見ると、行政や教育、団体が方向性を合わせる場を設けていただきたいとか、横のつながりや連携を希望するものが多いが、町として考えている取組はあるか。

事務局：ヒアリング調査の中での横でのつながり、担当者同士で話せる場があると良いという意見をうかがっている。そのような機会や団体同士の横のつながりができるような場を設定できるように検討している。

委 員：ヒアリングでは課題が網羅されており、簡単なことではないがこれらを解決できれば良い町になっていくと思った。運営費が不足していることについて書かれている団体があるが、これは町が対応するしかないと思う。町内のほかの取組についてもだが、ボランティアでされている方が多い。役員報酬があるといってもわずかな状況で、それでも地域のために一生懸命取り組まれている。自分たちの生活を差し置いて活動されている団体もあると思う。関係団体に対し町が補助をしていく考えはあるか。

事務局：現時点で予定はないが、会議の中で意見を聞いたうえで今後の施策に反映していきたい。

委 員：こどもが発熱したときに特に感じたことだが、共働き家庭が子育てと仕事を両立させることが難しい地域だと思う。病児保育を行っているが、診察などの手続きがあり、利用枠も少なく、取り合うような現状なのではないか。京丹波町で小児科保育の充実に取り組んでほしい。こどもが育てやすいまちとなるように、検討してほしい。

事務局：京都中部総合医療センターで病児保育を行っているが、距離的に遠いということもあり、京丹波町で登録されているのは4組、昨年度の利用実績は1件と少ない状況。南丹市八木町まで行き診察を受け、こどもを預けて出勤することの難しさは課題として認識している。現在、南丹圏域の3市町で、他の診療機関の診断でも病児保育を利用できるよう調整を進めている。過去に京丹波町病院で病児保育ができないかを検討したことがあったが、人員や設備の面で難しかったという経緯がある。共働き世帯が多くなり、1歳になったらこども園に預けられる世帯が多くなっている。行政として可能な限り対応・検討していきたいと思うが、各事業所や会社全体での働きやすい環境づくりに取り組んでいく必要があると考えている。

委員：会長からアンケートに対しての答えが欲しいという声があるとの話があった。これだけ多岐にわたる意見や要望に1つ1つ回答していくのは無理だと思うが、どれも切実な思いばかり。難しいことは承知しているが、多岐にわたる意見を大きくくりでまとめることで収束させていくことが必要だと思う。この審議会には様々な団体からの参加者がいるが、この団体にはこの意見を伝えるというようにまとめていくようにしてはどうか。また、関係課職員がオブザーバーとして参加しているが、各課に関係する内容がどう各課に伝わり、町民に還元されるのかが見えない。それぞれの課で協議するのか、また、同じような課題がいっぱい出てきているのでそれらをどうつなげていくのか。いただいた意見をまとめていくことで、書かれている切実な課題の解決につなげていけると良い。

事務局：回答されたそれぞれの方のニュアンスの違いはあるが、資料はいただいた回答の意図が伝わりやすいよう詳細に示している。オブザーバーである各担当部署にも資料を共有しており、こども計画を策定していく中で、各課でも施策を検討してもらう。この1年間かけてこども計画を策定していくので、できたときには答えを計画の中に盛り込むことで、関係団体や住民の皆様へ返していきたい。

委員：若者向け調査票の自由記述の中に「アンケートをするだけでなく、結果に応じて何かをするのが町の仕事だ」と書かれている。アンケートをするということはそれに対して責任が発生する。アンケート結果に対してどう取り組んでいくかという回答を、アンケートしてくれた人に返していくことが必要。一方通行になりがちなので、ヒアリングを依頼した関係団体全てに結果を返し、行政に反映させていかなければならないと感じた。

事務局：こども計画の策定の中で回答を示したいと考えている。またその前の段階で関係団体ヒアリング結果について紹介する機会を設けられるようにしていきたい。

委員：社会福祉協議会でも様々な事業を展開しているが、小・中学生や保護者など、社協からするとなかなか意見を聴きにくい方からの意見を知ることができた。高齢者や障害者だけでなく、こどもや子育て世代も巻き込んだ地域福祉事業をしていくにあたって重要な意見だった。書かれている課題については、行政だけに任せるのではなく社協としても何かできないかと感じた。事務局の確認を取り、アンケート結果については社協の内部でも共有をさせていただいた。アンケートでの意見や課題についてどう返していくかということについて、行政だけでなくそれぞれの関係機関や本日出席されている団体の中でも、それぞれがかかわれることを計画の中に取り入れていくことが大事だと思う。行政だけの計画でなく、行政ができることと私たちができること、関係機関ができることを考えていく必要があると思う。

社協には様々な補助金の案内が届くが、その補助金をどのようにして必要としている方々に情報提供するかが課題となっている。赤い羽根共同募金も町内で活用してもらっているが、子育て支援や地域活動にも活用してもらえるように、こどもの居場所づくりやこどもに体験をさせてあげられるような場がないのであれば、

それに活用してもらえるような財源になると思う。アンケート結果をさらに読み解きながら、社協としての答えや考えを提案していきたいし、他の団体の皆さんもそれぞれの立場から提案いただければ、よりよい計画になっていくと思う。

会 長：ヒアリングに回答していただいた関係団体に、今日の審議会で出た意見もぜひ返してほしい。

(2) 若者への追加調査について（実施概要～速報値）

【事務局による説明】

会 長：回収率について、もう少し高くなることを期待していたが、これが現実かというところに落ち着いた。回答率を高めることよりも施策が若者に届き、興味関心を持ってもらえるような情報伝達が必要だと感じた。もし京丹波町の行政に興味のない若者がいるとしたら、その若者をどう取り込んでいけるかというところを踏まえ、若者への支援のありかたを考えていきたい。

委 員：回収率は変わっていないという感想を持った。どの世代毎にどのくらい配り、回答があったのか（世代別の反応率）を知りたい。

事務局：後日お示しする。

委 員：結果の表記が％となっているが、人数のほうが分かりやすいのではないかな。アンケートの回答を見ると皆さんが同じことを考えているなと感じた。例えば、自然が多いが商業施設がないという意見や、子育ての分野では京丹波町には雨が降ったときに遊べる場所がない、という意見など。綾部市には無料で使える場所があるため、みんな集まっていくなのではないかなと思う。京丹波町にそのような場所がないのはさみしい。

農業で安定した収入が得られるのであれば、若者が農家を継いでいこうという気持ちが生まれる。収入が不安であることや働き先が少ないことが京丹波町の弱い部分であるため、そこを解決していかないと若い世代が京丹波町から出ていつて帰ってこない。

10年前と比較するとよくなった部分もあるものの、悪くなっている部分が目立つ。商業施設の誘致や都会からIT企業を誘致するなど、次の世代が職を選びやすい環境をつくっていかないと10年後はさらに厳しい状況になるのではないかなと感じた。

委 員：回答の中に英語とベトナム語があったが外国籍住民に対しての対応はどうしたのか。

事務局：調査票に英語を併記して送付した。また、PR用の名刺大のカードも英語版を作成して配布した。

委 員：アンケート結果を見て、若者は冷静に京丹波町を見ていると思った。京丹波町より亀岡市で買物したほうが安く、やりたい仕事もある。こどもが遊ぶための送迎もあり、どこに行くにも車が必要である。核家族にとっては大変な状況。

(3) のびのび児童クラブに通うこどもへの意見聴取について

【事務局による説明】

委員：のびのび児童クラブ1組と2組で意見のまとめ方が異なる理由は何か。

事務局：1組ではグループワークに参加するこどもたちのみの部屋があり、集中して取り組むことができたが、2組では別室の確保ができず参加者以外の児童もいる中での実施となったため、進行が難しかったことによる。

委員：こどもにやさしくない理由として1組からでた意見の中に「お年寄りが多い」とあることについて、大丈夫なのかなと思う。「観光地が少ない」という意見は、こどもたちがすることがない、送迎がないと遊べないということであると思うが、公共交通の充実も難しい状況でどう解決していくかという問題がある。車があるからバスを使わないとなるとバスも減便となってしまう。そうなると思いたい人にとっての利便性が低くなってしまうので、この会議で話せればいいと思う。

会長：「お年寄りが多い」ことがこどもにやさしくない理由として出たのは、高齢者の数は多いのでコミュニティがたくさんできているのに対して、こどもの数は少なくコミュニティが作りにくい状況で、うらやましいという感情から生じた意見なのではないか。

委員：放課後児童クラブでの意見聴取結果では、こどもらしい意見が出ており実現が難しいものもあるが、ウォーターサーバーを増やしてほしいという意見等、応えられる意見は早急に対応してほしい。

夏休み期間にこどもたちに呼びかけて、和知地区から町営バスに乗り自然公園まで行ったが、自分のこども以外町営バスに乗ったことがなかった。バスがあること、自然公園へ行けること、乗り方、値段も知らなかった。役場から中央公民館の間に自然公園を通るが、その区間は自由に降りることができることも知らない。この体験を通してこどもたちの間でも自然公園に行くことができるという気づきに繋がっていた。

私自身はバスを使うように意識しているが、バスを知る機会が少なかった。日ごろからバスを使わない人にとっては、バスの時間を調べて行くよりも車を使うのではないか。バスを使う側の意識を変えるにはどうしたらいいのかということも思った経験だった。

オブザーバー：ウォーターサーバーは去年から各小中学校に1つずつ設置している。さらにあったらいいという意見かと思うが予算のこともありすぐに対応することは難しい。このような意見をいただいたことは課内でも共有する。

会長：「いじめがちょっとでもいいからなくなってほしい」という意見があるが、実情はどうか。

委員：いじめについて各学校で年に最低2回の調査が必須となっている。追加調査している学校もある。この調査の中で、いじめに関しての訴えがあれば、どういう状況であるか担任が話を聞く。解決している場合もあればそうでない場合もあり、様子見が必要な場合は全教職員経過観察をしており、その結果は教育委員会に報

告している。調査を行うと仲間にいれてもらえなかったといった話は出てくるため、丁寧に話を聞いたりフォローしたり解消に向けて取り組んでいる。

会 長：こどもたちにとって良い環境ができることを願っている。この件ではないが、暗闇が多くて危ないという意見を見たので、街灯などの整備も進めてほしい。

委 員：3時のおやつがほしいという意見があるが、恐らくおやつがなくなったのかと思っている。今までできていたことは実施してもらえるとありがたい。公園で日陰がないという意見があるが、昔は藤棚などもあったように記憶している。遊具の設置に補助金もあると思うので、そういったものを活用して地域づくりをしていただきたい。

バスの便数が少ないと自身も感じているため、30分に1本でも運行してもらえたらよい。町内バスの便数を増やす、夕方・夜もバスが運行しているうちに、車がなくても町内移動できるというところまで目指してほしい。また、公共交通の充実はお年寄りの買物支援にも係る部分だと思うので町をあげて取り組んでほしい。

委 員：子育てで孤独を感じる母親を少しでも減らしたいという思いで、母親同士のつながりの場所づくりを20年前から実施している。多くの母親が集まる乳児検診の機会を活かし、お友達ができるきっかけを作るために、温かいお茶を出すなどの時間を設けてはいいのではないかと感じた。部活動していない須知高校生に放課後児童クラブのアルバイトをしてもらえたらいいのではないかとと思う。高校生はお小遣いも必要であるし、放課後の時間帯も活用できる。こどもたちも、若いお兄さんたちに思いっきり遊んでももらえると喜ぶのではないか。

たんぽぽ広場はボランティアで取り組んでいたが、社協から助成金のことを教えてもらった。土曜日開催への希望があったが土日は子連れになり大所帯となるため、公民館の1室を3,000円で確保する必要があった。その中でも母親たちの金銭負担を軽くしたかったため、助成金を教えてもらい、ありがたく感じた。横のつながりは大切だと思った。

いろいろなこどもの特技を見つけたい、ダンススクールやプール教室といった可能性を試す場所を探している人がいる。京丹波町にも素敵な特技をもっている人がいるので、得意な方に教えてもらったり、体験できる機会があれば他の地域に行かなくていいのではないかと考えた。

須知高校の森も自然豊かでいい。海外の森には「妖精の家」が置かれていて、こどもが楽しく散歩できるようになっている。このような、ちょっとしたことでこどもたちは楽しめると思った。また、夏の暑い時期にこどもたちの運動量が減ることを心配して、亀岡や南丹市日吉町の施設に利用者が集まり混雑していると聞いたため、室内アスレチックが京丹波町にもあるといい。

また、公民館をさらに活用できるかと思っている。それぞれの自宅の近くにあるため、公民館に行けば誰かがいるようなことになれば、こどもたちが公民館で宿題をしたり、そこで野菜などを使って昼食を出したりといったあたたかいことができるのではないか。

3 意見交換

※議事の変更について

「2 報告事項」の次に「3 グループワーク」を実施する予定であったが、議事の進行状況を鑑み、意見交換を継続することについて提案、承認された。

会 長：京丹波町のこども計画に関しての意見、全体の意見、子育て支援に対して、私たちに何ができるかというテーマについてご意見いただければありがたい。

委 員：個人でクラブチームを持っており、夏休みに公民館を使って合宿をした。自身がかつて経験したこども会の取組を再現したかった。

内容としては朝に集まってカレーをつくり、川遊びをして、流しそうめんをして夜に散歩して公民館で就寝、翌朝カレーを食べてラジオ体操をして解散をした。

公民館を活用できたことに価値があったし、こどもにとっては初めてづくしで良い経験を提供できたと思う。こどもたちから毎月したいとのリクエストもあり、毎月は厳しいが取組自体は継続していきたいと思っている。和知地区以外から参加もあり交流の機会にもなった。

こどもへの機会の提供が大切。田舎らしい取組、草ひき大会や農業体験をしたいが、場所の提供など協力してくれる人がいたらつながりたいし、横のつながりがほしい。そういったつながりの情報をどうしたら得られるのかを知りたい。

個人で取り組んでいるため、自身や参加する親子たちに負担がない形で運営していきたい。現在は、肝試しをしたいという希望があり、安全面を考え室内での実施を検討している。

会 長：サポートが必要なときは言っていただけると、お手伝いしたい。

委 員：子どもたちが計画をするということから始める取組として、瑞穂の夕涼み大会を去年から行っている。瑞穂小学校6年生を中心に多くのアイデアを出してもらい、また、瑞穂中学校の生徒にも協力してもらい、企画から当日の司会進行まで責任をもって担当をしてもらった。結果として、瑞穂にこれだけの親子がいたのかと思うくらい盛り上がった。祭りに参加するだけではなく、自分たちが運営するということが盛り上がりにつながっていた。

学校の先生からは、この機会以降こどもたちがいきいきしている、自立したなど、学校生活の中で成長が見られたという話を聞いた。今年も同様に開催し盛り上がった。こどもを主人公にするということが、地域の活性化・こどもの成長に役立っていることを実感した。

瑞穂小学校では地域にひらかれた学校ということを先生たちも考えておられる。田植えや稲刈り体験をすることや、お茶摘みをして摘んだお茶が飲めるようになるまでの過程も見て、できたお茶は持ち帰るという体験もしている。学校と地域のつながり、保護者とのつながり、その中でこどもたちの成長を見させてもらっている。

町営バスの話としては、ウォーキング同好会での行きは歩き、帰りにバスを利用

するという企画がある。いきいきサロンでは往復で町営バスを利用している。そのときは乗車人数が多くなるため、事前に担当者に連絡をすることで、普段より大型のバスを運行する対応をしてもらっている。担当でないと分からないこともあるが、行政に聞けば教えてもらったり配慮してもらったりすることがある。

今後、自分自身が高齢者に向かう中で免許を返納することへの不安もあるが、今から身近なサービスを利用して、バスに乗るとか地域の取組をこどもに伝えていけたらいい。身近な魅力を発信していけたらと思うし、そういったことを知っているのと知らないのとでは大きく違う。京丹波町の良さをさらに盛り上げたい。

委員：移住して11年目になるが、和知・丹波・瑞穂の各地域が旧3町の体制をそれぞれを踏襲していることが気になっている。小学校でもそれぞれ取組が異なっている。いい取組が京丹波町全体に広がればいいと思うがそうになっていない様子である。

各地域が遠すぎて交流の機会もない。距離があるため難しいかもしれないが交流できる場があると良い。

各小学校が1か所に集まって体育大会のようなことを大々的にやってもいい。

先ほどから言われているが知らないことが多い。テレビでの周知があるが、あまり見られていない。スマートフォンのアプリも設定をしないとお知らせが届かない。設定を区単位でしてもらえたらいいと思う。質美地域には小学生が27人いるが、全員が友達かというところでもない。集落や区ごとに分かれていると行ったり来たりしていない様子である。「京丹波町のこどもたち」として旧町の隔たりがなくなればいいと思う。

委員：関係団体ヒアリングまとめ資料の10ページに演劇を切り口とした事例を紹介しているのでよければお読みいただき、1つのキーワードとして取り組んでいただきたい。

自由記述一覧の中に防災教育が見つけれなかったが、こどもたちにも防災教育は大事だと思っている。社協と共に言語の壁により取り残されないようにするための取組は進めているが、こどもたちにも災害へ備える意識の醸成が必要だと思う。

どんな災害が起こるか分からない中で、座学ではなく体験を通した取組を行うべきだと思う。9月27、28日に町民を対象とした宿泊型の防災体験が催されるペットボトルのふたから燃料を作り、燃料で発電し、この電力を用いて一晩過ごすというイベントで、注目を集めている。こういった体験の機会を提供していただける団体があるいい環境であるということをアピールさせていただく。

委員：出会いの場所があることは大事だと思っているが京丹波町にはそういう場所がない。飲み屋もアミューズメント施設もない、高校生・大学生世代が楽しめる空間がない。人生をデザインしていくうえで恋愛をイメージできる場所がないところがつらい。そこでどうするかという話になると、先ほど話があったように行政と民間の取組は切り分けるべきだと思う。

12月に補助金を活用してイベントを開催する。補助をいただいた以上は町民のみなさんに広く利用していただきたい。出会いの場所づくりを地域ボランティアやまちおこし団体で行い、行政には告知で協力いただきたい。

先日納涼祭を開催したが、他地区のイベントと日程が重なってしまい悲しい客足となった。地区の祭りの日程が重ならないようにということもあるし、小学生だけではなく高校生・大学生が出会えるようにしたい。瑞穂夕涼みでも盆踊りを踊ったりすると思い出になる。ボランティアの方が活動を継続できるように、補助金に関する情報などを教えていただき、若者が人生をデザインするうえで必要な場をつくれたらいいと思っている。

委員：京丹波町の母子寡婦福祉会で活動している。都会よりも周りの目が気になり不安を感じているという意見が気になった。私自身30年以上前に主人が亡くなったが、母親と父親の代わりと一生懸命頑張ってきた。今のお母さん方は離別が多く家庭の状況は様々だが、個人で相談してくる方もいる。こどもが大きくなることを楽しみに行事を開催すると喜んで参加してくれる。両親そろっている家庭とは違うが、ひとり親家庭もとても頑張っている。今はひとり親家庭が多く、バス旅行の参加者は例年30人程度のところ、今年は50人もの参加があり喜んでいただいて、大変ではあったがとてもよかった。8月にはバーベキューを開催した。ひとり親家庭の体験の機会が少ないとあったが、応援できることは一生懸命したいと思っているため、機会を提供できるような活動を通じて交流ができればいいと思っている。

学習会も小学生と中学生にひとり親家庭を中心に行っている。1つ1つ役に立てよう頑張っていきたい。

委員：子育て団体の活動をしている。地域の方の協力があって公民館を無料で使用させていただき感謝している。

社協からも補助などについて声をかけていただき、ハロウィンやクリスマスの催しを開催した。最近は口コミにより地域を越えて亀岡のほうからも参加がある。京丹波町はいいですねと声をかけていただき、困っている方の力になれていることや取組が広がってきたことを実感し嬉しく感じている。これからも協力いただきながら活動を進めていきたい。

会長：大人や審議会の委員一人ひとりが元気で健康であるということが、こどもたちの支援にあたって幸せや豊かさを伝えられたりすることにつながる。いただいた意見をまとめて皆様にお返しするとともに、議論を経てこども計画に盛り込まれることを期待している。

4 事務連絡（次回予定）

【第3回審議会日時】令和7年12月10日（水）午後1時30分～

5 閉会あいさつ（藤田副会長）

副会長：委員の皆さんには、それぞれの団体においてご自分の立場でされていること

をたくさんお話ししていただけたと思う。グループに分かれてではなく、この場の全員で共有できたのは一番の成果だととらえている。たくさん出していただいた意見を事務局とまとめて、こども計画をつくるうえで何を大事にすればいいのか、計画を取り巻く支援事業を考えていきたいと思う。

委員の皆さんにおいては、アンケートに目を通してきていただき、大変ありがたい。たくさん事業が行われているものの、知らない方もいらっしゃるので、皆さんがおっしゃったようにやはり周知を徹底することが大事だと思う。また、点と点ではたくさん取組をされているが、それをつないで連携し、交流することで町内全体に広げていくことが必要であるというご意見もいただいた。

新しい視点として気づいたことは、自然が豊かであることが京丹波町のアピールポイントである一方で、小・中学生から「自然が豊かだと言われているが、雑草やポイ捨てが多い」という意見が出ていた。また、空き家や廃墟が多いという声もあり、こどもたちはそういうところも見ているのだなと感じた。子育て環境としてだけでなく、京丹波町全体の環境の問題としても考えていただきたいし、そのようなところまで、アンケートによって浮き彫りになっている。

今日の審議会で委員それぞれの間で共有できたことがたくさんあり、母子寡婦福祉会の学習会や廣瀬委員の活動など、さまざまな活動が広がっていくきっかけになっている。主任児童委員である自分と寺谷委員、稲葉委員がファミリー・サポート・センターに参加していることも、この審議会がきっかけになっている。このような場に参加いただくということは、それぞれが子育て支援に関われるスタートになるのではないかと考えている。グループワークのテーマがまさにその「自分は何ができるか」だったので、次回の審議会までにそれぞれで考えていただき、それぞれの所属している地域や団体などで今日の話を広めていただきたいと思う。